

2022 JUA/AUA Academic Exchange Program 参加報告

竹 下 英 毅 (埼玉医大総合医療センター)

私は、JUA/AUA Academic Exchange Program に幸運にも選ばれ、カリフォルニアのスタンフォード大学での臨床見学とニューオーリンズでの AUA2022 に参加させていただきましたので、ご報告させていただきます。4月25日から5月12日までスタンフォードへ、5月13日から16日までニューオーリンズへ、大阪大学の竹澤先生と共に行って参りました。

4月末の日本からの出国は、コロナ陰性証明やワクチン接種証明などが必要でとても厳しく、準備にナーバスになりました。いざ米国に入国しますとマスクをしている人は少なくコロナが終わったのかと錯覚するような状況でした。

スタンフォード大学に到着した初日は、ちょうど看護師のストライキが行われており、文化の違いに衝撃を受けました。スタンフォード大学泌尿器科では、ロボット手術部門長である Chung 准教授に師事しました。主に1日2件のロボット支援腎・前立腺手術の見学をさせていただきました。肥満が多く、いずれも難しい症例ばかりでしたが、短時間で終わり手技は鮮やかでした。今回、手術手技だけではなく、レジデントやコメディカルの動きなど、生き生きとした米国の一流施設の手術室の中の様子を知ることができたことが大きな収穫でした。泌尿器科専属の Physician assistant の Pamera さんの気腹からポート挿入、ロールインまでのスピードは爆速で、助

手技術の高さには大変驚きました。先生方はみな音楽がお好きで、たいてい手術中大音量で音楽をかけていました。Shah 先生のロボット鉗子は膀胱全摘をしながら踊ってしまっていました。それでいても手術はスムーズに終了しており、良いパフォーマンスを出すためにリラックスしたムードづくりが重要で、参考にしたいと思いました。また、Attending Dr たちは皆、Resident へ我慢強く、熱心に手術指導されていたのも印象的でした。Chair の Skinner 教授が、Resident の TUR に手洗いで入り、検体処理の仕方についても熱く厳しく指導されていたのには感動し、自分もこうありたいと思いました。

休日には、広大なスタンフォード大学構内を自転車で散策したり、サンフランシスコへ移動し、ゴールデンゲートブリッジまでサイクリングをして楽しみました。最終日近くには、Chung 先生は食事会も開いてくださいましたが、日本の4~5倍という物価の高さには閉口しましたが、竹澤先生と自炊をしたりして、忙しい日々を忘れとても楽しい時間を過ごしました。

今回、夢のような体験をさせていただきました。JUA と AUA の関係者の皆様に感謝申し上げます。また、本プログラムの応募の際、素晴らしい推薦状を作成してくださいました川上理教授、人手が足りない中快く送り出してくださいました医局の皆様重ねて感謝申し上げます。



上写真：左から、韓国からの Visiting professor の Koh 先生、大阪大の竹澤先生、スタンフォード大の Chung 先生、竹下（筆者）。

左下写真：（上）新病院入口、（中）大学構内中心にある広大なメモリアル・コート、（下）ゴールデンゲートブリッジへのサイクリングの様子。

右下写真：（上）左から、デンマークから見学に訪れていた Herlev 病院の Vrang 先生、竹下（筆者）、竹澤先生。（下）AUA の president reception にて、左から、自治医大の安東先生、群馬大の宮澤先生、大変お世話になった AUA の国際担当の Roth さん、岡山大の関戸先生、竹下（筆者）、竹澤先生。